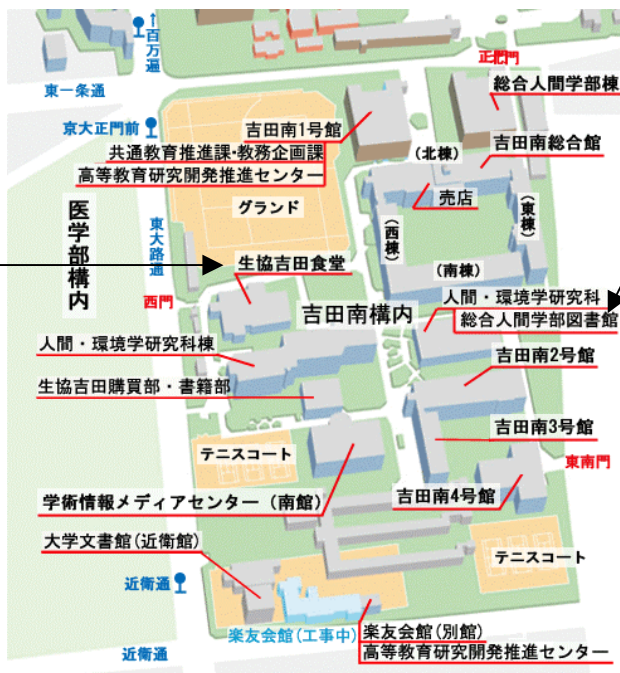


～図書館アラカルト～

前回からだいぶ時間が経ったような気もしますが、久しぶりに原稿をしたためました！今回は、京大の中にある様々な図書館とその特徴を南目線で語っていきこうと思います。京大生のなかにも、試験期間中ぐらしか図書館を利用せず、あまり多くの図書館を経験していない人も多いと思いますが、南はそのへんの一般的な京大生とは違います。附属図書館はもとより、多くの学部にも附設されている図書館まで利用しました。まあ、“勤勉”だったというより“一つの図書館だと飽きてしまう”というところが真相だったのですが(笑)。

【総合人間学部図書館】



京大のホームページから構内マップを拝借してもらいました。おそらく今も変わっていないと思いますが、1年生の間は上の構内マップに載っている吉田南構内で授業を受けることが多いと思います。吉田南総合館や吉田南4号館とかで授業を受けて、生協吉田食堂で昼ごはんを食べ、再び授業に戻る…という生活を送っていた気がします。ずっと生協吉田食堂に居座りすぎて、昼から授業に出なかった、

なんてこともよくあったような気がします(笑)。この1年生の時期に利用頻度が高くなるのが総合人間学部図書館だと思います。授業の空きコマのとき、試験期間中、授業の調べものをするときなどに利用する感じです。ですが、私は1年生のときにこの図書館を利用した記憶がほとんどありません。1年生時代の私は向学心のかけらもありませんでした。友人に書物のことで相談されたときに、「あっ、南さんに聞いても図書館使ってないから意味なかったね」と言われる有様です。この言葉をいまだに覚えているので、当時相当屈辱的だったのでしょうか。でも、この言葉を投げかけられたとて、利用頻度が上がることはありませんでした。図書館を利用しなかったことが2年生になってとんでもない事件を引き起こすことになるうとは…。また機会があったらこの事件のことをお話したいと思います。話が若干それましたが、この図書館の前で夜中にパーティーをしたことはありました。あっ、またそれでしたね。

こうして不埒な南像を露呈してしまいましたが、この図書館は4年生ぐらいからよく使うようになりましたよ！就職する気もあんまりなかったので、大学院に進むことを考え、院試の勉強や卒論執筆を4年生から頑張るようになりました。そして久しぶりに総合人間学部図書館を訪れると、2階の学習室の環境がとていいのです。机が綺麗とか雰囲気明るいとか、そんなことでは全然なくて、すごく頹廢的な雰囲気がして良かったのです。学習している人の2割ぐらいは机にうつぶせになって寝ているし、電気は暗いし、周りの窓から木々が見えるので、なかなか新鮮でした。学習室の入り口の横には古ぼけたソファがあって、疲れたらそこで休めるのも良かったですね。もしかしたら今はすごく明るくて綺麗になっているかもしれません。そうならごめんなさい。合格してから確かめてください。

【文学部閲覧室】

私は文学部生だったので、ここの話は絶対にしないといけませんね。とりあえず名前は図書館ではな

強者の戦略

く文学部閲覧室です。私が1年生ぐらいのときに工
事をして、2年生ぐらいのときには今のように綺麗
な感じになっていたと思います。



文学部閲覧室(通称“文閲”^{ぶんえつ})は、ほんとうに閲覧
室です。横と仕切りがあるような自習用の机など一
切なく、開架の書物をちょっと調べたりする程度
のことしかできません。授業の空きコマぐらいの利
用ならできますが、がちり長時間勉強する人は少
なかった気がします。私自身もなぜかここでは集中
力が続きませんでした。でも、文閲にも良さがあり
ます。一步外に出ればさわやかな環境が整ってい
るのです。

一番上の写真は、文閲、というか文学部を出た
ところの写真です。近くにある中央食堂の自販機で
コーヒーでも買って、柱の横で座りながらまったり
すると、再び勉強の意欲が湧いてきます(2年生の
ときの昼ごはん時には、ここで買ってきた弁当を
友人達と食べていたこともあります)。次の写真は、
文閲から逆サイドに出たところ。このベンチもか
なりいいですね。このベンチに座って、数分 K-
POP を聴いてから勉強に戻るということをして
いました。10年前から聴いているんですから尊敬
に値するはず(笑)。一番下は文学部の建物の中
にあるベン

チです。ここのベンチでもよく友人達と長々としゃ
べっていた記憶があります。何にせよ、気晴らし
できる環境がある図書館がいい図書館だと思
います。



[掲示板を挟んで2つの教室があります]



[心地よい風が吹いてくる良質な環境です]



[昔はもっとベンチの数が少なかったような…]

強者の戦略

あっ、言い忘れましたが、文閲には書庫があって、2年生になると入ることができるようになります。文学部に合格して2年生になったら、書庫の「現代史」コーナーで私の修士論文を見てみてください。

「天津における抗日活動」というタイトルだった気がします。やはり著名な研究者の修士論文はいろいろな学生の手に触れられているので汚くなっているものです。ぜひ私の修士論文も汚しておいてください。別に落書きしろって言うてるわけじゃないですよ(笑)。

【法学部・経済学部・教育学部】

この3つの学部もやはり図書館というより閲覧室といった方が正しいと思います。法経学部北館の1階が経済学部閲覧室で、2階が法学部閲覧室だったような気がします。入るときに荷物を預けなければならぬのがポイントです。そして座席数が多くありません。でも、満員になっている状態を見たことがありません。人気スポットではないのでしょうか。普段の通いなれた図書館に飽きたときに利用したときもありますが、居心地が悪く集中力が続きませんでした。息抜きできるスポットもないので、私のなかでの評価は低いです。

教育学部はびっくりしますよ。座席数が6個ぐらいしかないんですよ。開架図書もほぼなく、利用しにくいこと請け合いです。私が通っていたときに受付にいた職員はほのぼのとした好人物だったので、そこが救いでしたね。

【附属図書館】

いや～満を持しての附属図書館です。この図書館にはかなりお世話になりました。4年生から大学院生の時期の、基本的な居場所になっていました。他の図書館に先に行って、集中力が切れたら附属図書館に来るようにしていました。何時間居ても飽きないんですよ、ここは。下の写真を見てもらおうとわかんと思います、入り口を出たすぐ横にベンチがあ

ります。勉強していて疲れたら、友人が勉強している机まで行って肩を叩き、とりあえず外に誘ってベンチで話して疲れを癒すということをしていました。

「西洋史学の先輩が就職活動の面接で、古典ギリシャ語ができるってアピールしたらしいんだけど、古典ギリシャ語って何の役に立つのって言われたらしいよ。せちがらいよね～。所詮文学部生なんて社会の役に立てないんだよ」とか話してました。大学院試験に向けて勉強しているときのけだるい感じが伝われば幸いです。



【ガラス張り付近の2階席で勉強すると外の景色を眺めることができるので良い感じです】



【このスペースは結構使えます！】

あと附属図書館のいいところは、受付の近くに2階に上がる螺旋状の階段があるんですけど、その階段を上ってすぐの場所にたくさんのソファが置い

強者の戦略

であることです。このソファーが最高すぎます。死んでるのかなと思うぐらいに長時間口を開けて寝ている人もそこそこいます。勉強に疲れたら、ひとまず書物を持ってソファーに行きます。そして惰眠をむさぼってから勉強に戻ります。この惰眠がいいんですよ。ぜひ合格してから行ってください。みんな幸せそうに寝てますから。最近、附属図書館の利用証を作って久しぶりに行って見ましたが、相変わらず寝てましたよ。

ちなみに、この利用証をつくる時の面倒くささをお伝えしておきます。まず平日に卒業証書のコピーを持っていく必要があります。きっちりコンパクトに丸められていて、しかもA3よりも大きめのサイズの卒業証書のコピーを取るのは想像以上に苦労しますよ。ある程度平坦に伸ばしながら証書を押さえ、“くり～ん”って丸まらないうちにすばやくふたをし、紙自体が水平になるようにセッティング！この頑張りに対して投げかけられたコンビニ店員の不審そうなまなざしが痛かったです。情報化社会がこれほど進んでいるのになぜコピーがいるのか段々腹が立ってきたので、附属図書館職員に聞いてみました。「コピーなんてやめて、データで照会してもらうことはできないのですか？」。すると、「附属図書館は卒業生データをもらえていないのです」という回答が返ってきました。国のやる仕事は融通がきかない感じですね。さらに、「1週間後に取りに来てください」と言われました。でも、「早く欲しいんです！」と言うと、「明日なら出来上がっていると思うので取りに来てください」と言われました。で、「何時ならOKですか？」と聞くと、「開館早々でも結構です」と言われました。……開館早々でOKなら、今日の晩でも出来上がっているのではないのか…だとしたら今日中でも良いのでは…と思いましたが、そこはさすがに引き下がって、「翌日うかがいます」と答えておきました。



翌日、この利用証をもらうときに、「横に附属している24時間利用可能の学習室はご利用できません」と言われました。まーびっくりなことに、今どきの附属図書館には24時間利用できる部屋ができていたんです。羨ましい限りです。そして、この24時間学習室の話京都校のチューターで薬学部に通っている福島英美里さんにしたところ、面白い話を聞くことができました。

この学習室は通称“^{にーよん}24”と呼ばれ、この部屋をよく利用しているメンバーはそのままだ“^{にーよん}24メンバー”と呼ばれます。基本的にはロースクールを目指している法学部生が半分、ロースクールに受かっているけれど自習室がないので勉強に来ている人が半分を占めています。このメンバーの結束力は半端ではないらしく、“^{にーよん}24飲み”なども開催されている模様。初めて利用して、2～3回目ぐらい利用を続けると、「君、見慣れない顔だね、何学部？」のように“^{にーよん}24メンバー”からお声もかかります。こうしてみると、学習室が法学部生的な人々の天下のように思えますが、必ずしもそうではないそうです。たまに中国人留学生であふれかえるときがあります。中国人留学生のための試験か何かがあるので、その時期に集中するらしいのですが、このときの利用の仕方がすごいんです。まず、部屋のなかでよくしゃべる。次に、日本人が置いている、席取りをするためのノートや筆箱などを惜しげもなくのかせて勝手に座っていきます。だから、“^{にーよん}24メンバー”は、「人のものをのかす中国人留学生ってどうなん？」って言っている人もいるみたいです。もともと席取りを

強者の戦略

しながら授業に出たりしている“24メンバー”^{にーよん}の方にも批判されるべきことはあるような気がします。

どうでしたか、図書館アラカルト。早く大学に合格して行ってみたいなど思ってくれるといいんですけどね。附属図書館は中央食堂やカフェテリア・ルネにも近いので、昼ごはんや晩ごはんも楽ですよ。きっとやみつきになります。

では、次回はいつ、どんな内容になるかわかりませんが、またお会いしましょう！